

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 はびじゅに首里城西校Ⅱ		
○保護者評価実施期間	R8年 1月10日		R8年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	R8年 1月10日		R8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	複数の部屋を活用できる環境を有しており、児童一人ひとりの特性や気持ちの状態に合わせた個別対応が可能です。落ち着いた環境で支援を行うことで、安心感を持って活動に参加できる体制を整えています。	疲労や情緒面の変化に配慮し、児童の状態観察を行いながら個室の活用を促す声かけを実施しています。 さらに、個室を活用した少人数環境を意図的に設定することで安心して自己表出や相談ができる環境を整え、心理的安定につながる支援を行っています。	今後も個室環境を活かし、児童の様子や気持ちの変化に応じた個別支援を充実させていきたいと考えています。安心して心身を休められる環境づくりとともに、少人数での関わりや対話の機会を大切に、児童が安心して気持ちを表現できる支援の充実を図ってまいります。
2	当事業所では特化型ではなく総合的なプログラムを実施しており、児童の興味や関心、当日の状態に応じた柔軟な活動提供が可能です。児童の意思を尊重した自己決定支援につなげるとともに、「やってみたい」という気持ちを大切に、多様な体験や挑戦の機会を提供していることが強みです。	日常的な対話を通して児童の興味関心や挑戦したい気持ちを把握するとともに、保護者の意向や支援目標を踏まえた活動設定を行っています。児童が主体的に参加できる活動の中に支援的な要素を取り入れることで、苦手意識のある課題にも自然な形で取り組めるよう配慮し、成功体験の積み重ねによる自己肯定感の向上を目指しています。また、日々活動内容に変化を持たせることで飽きのこない環境づくりを行い、児童が楽しみながら継続して通所できる点も当事業所の強みとなっています。	今後は、児童一人ひとりの興味関心や思いをより丁寧に支援へ反映させながら、多様な活動や体験機会の充実を図ってきたいと考えています。児童が主体的に選択し、安心して挑戦できる環境づくりを継続することで、楽しみながら成長を実感できる支援のさらなる充実を目指します。
3	当事業所は多機能型として運営しているため、児童発達支援から放課後等デイサービスへの円滑な移行支援が可能です。支援環境や人的関係の継続性を確保することで、環境変化による不安や負担を軽減し、発達段階に応じた切れ目のない支援を提供できる点が当事業所の強みとなっています。	新一年生の受け入れにおいては、進級時の不安軽減を目的として、可能な限り進級前からの利用開始を保護者へ提案し、段階的に環境へ慣れる機会を設けています。児童だけでなく保護者にも安心して進級を迎えていただけるよう、事前の関係づくりや情報共有を大切に受け入れ体制を整えています。	今後は、進級前からの受け入れ支援の充実に向け、保護者との丁寧な情報共有に加え、保育所や児童発達支援センター等の関係機関と連携しながら支援情報の引き継ぎを行い、児童の発達状況や支援ニーズを踏まえた段階的な移行支援の強化を図ってきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日常的な連絡や個別相談を通じた保護者支援は行っていますが、保護者同士が交流できる場の設定については今後の検討課題と捉えています。保護者間の情報共有や交流の機会を設けることで、より安心感のある支援体制の充実を図ってきたいと考えています。	開所からの期間がまだ浅く、これまでは個別相談や日常的な情報共有を中心に保護者支援を行ってきましたが、運営を進める中で保護者の意見や要望を共有できる場の必要性を感じるようになりました。保護者の声をより広く把握し、支援や事業運営へ反映していくための機会づくりが今後の課題の要因だと考えています。	今後は、アンケートの実施や個別面談の充実に加え、保護者同士が情報共有や交流を行える機会について検討を進めてまいります。
2	当事業所では、日々の支援において保護者との個別の情報共有や相談支援は行っておりますが、家族全体への支援プログラムや、保護者・家族が参加できる研修会等の機会の提供には至っていない状況があります。 そのため、家庭での関わり方や子育てに関する学びを共有する場が十分に確保できていないことが課題であると認識しております。今後は、保護者ニーズを踏まえながら、家族支援の視点を取り入れた研修や交流の機会について検討し、家庭と事業所がより連携した支援体制の構築を目指していく必要があると考えております。	当事業所は開所からの期間がまだ浅く、まずは児童への直接支援体制の安定化や日々の運営基盤の構築を優先してきたことから、家族支援プログラムや保護者参加型の研修・交流の機会の整備まで十分に取組むことができていませんでした。また、個別での連絡や相談対応を中心に保護者支援を行ってきたため、集団形式での学びや意見交換の場の必要性について、事業所として体系的に検討する機会が少なかったことも要因と考えています。	家族支援の充実を図るため、保護者が気軽に参加できる情報共有や学びの機会を段階的に整備すること検討していく必要があると考えます。 専門職による研修や子育てに関する情報提供の機会を設けることで、家庭での関わり方や悩みを共有できる場づくりを進め、事業所と家庭が連携しながら児童を支援できる体制の強化を目指します。
3	地域交流の機会や地域の方々を招いた活動の実施が少なく、地域とのつながりを深める取り組みについて今後充実させていく必要があると考えています。	地域との関係構築に向けた情報発信や交流機会の企画について、事業所として計画的に検討する機会が少なかったことも要因の一つと考えています。今後は地域とのつながりが児童の社会経験の拡大や事業所理解の促進につながるという視点を持ち、段階的に取り組みを進めていく必要があると認識しています。	地域行事への参加や近隣施設との交流機会の検討、事業所見学の受け入れなど、無理のない範囲から段階的に交流の機会を広げていきます。